

12月号



土浦一高(定時制)だよ!

進路講話 / 本棚のプレゼント
/ 土一定時制が新聞に

土浦市真鍋 4丁目 4-2
Tel. 029-822-0137



進路講話：労働条件セミナー



11月26日、進路講話第2弾として茨城労働基準協会連合会の専務理事をされている橋本篤弘さんによる「労働条件セミナー」が開催されました。アルバイトも含めて働く人を守ってくれる法律がこんなにたくさんあるとは！とても勉強になりました。就職やバイトで問題が生じたら「確かめよう労働条件」で検索！（アプリもあるよ）

本棚の Xmas プレゼント



11月末に進修同窓会（土浦一高の同窓会の名称）定時制部会より、定時制文庫のための素敵な本棚がプレゼントされました。県内でも有名な「尾張屋」社長、櫻井光孝さん（茨城県ものづくりマイスターにして土浦一高定時制OB）の作品です。定時制のみんなへの1ヶ月早いクリスマスプレゼントになりました。本当にありがとうございます。

土浦一高定時制の社会人講話が新聞に

10月10日に行われた平野国美さんの社会人講話が11月7日の読売新聞に掲載されました。1年生の小林くんと川島くんのインタビューもとりあげられ新聞デビューです！

2019年(令和元年)11月7日(木曜日)
読売新聞



自分らしき大切に生きて

「看取りの医者 平野さん 定時制で講演

第一高校で、定時制の在校生たちに講演した。学校側にとっては、今年度から始まった「総合的な探究の時間」を活用し、生徒に自己肯定感を高める取り組みだ。

自宅へ帰ると迎えるのは、訪問診療する患者を待つ。本一軒取りの歴史的な建物、平野国美さん(34)の「看取り」が「生かす」をテーマに母校の日立土浦

「死亡診断書を書くのが、死を告げます。」「物静かなお墓参りに平野さんの語り、10月10日、約80人の生徒たちが聞き入り、涙を流した。学校側としては、筑波大に進学した生徒も、試験勉強がはずずに2度留年。その後も、無気力な研修医時代を過ごしたという。38歳で開業医になったが、昔の死に診断書の多き「線」がもたらした生き生きとした一コマが、自分らしき生きていくという。製薬会社幹部の言葉が、前向きに生きる転機となった。延命治療をしない、と望む終末期の患者に寄り添う訪問診療。一人一人生まれの口を、在学中に学んだことを、今と結びつけて話した。9年と約630人を看取った経験は、大竹しのぶさん主演でテレビドラマにもなった。平野さんは「自分らしき生き、それをどう見せるかが大事」と力を込めた。

「黒板に書いてあるように、総合的な探究の時間」では、自分の生き方やあり方を考え、探究する力を育成していく。2019年度には、定時制新卒指導要領の前倒し実施として、19年度は1年生から導入された。

「黒板に書いてあるように、総合的な探究の時間」では、自分の生き方やあり方を考え、探究する力を育成していく。2019年度には、定時制新卒指導要領の前倒し実施として、19年度は1年生から導入された。

<記事は読売新聞提供>



変われば軌道修正できる。生徒が自分の生き方を肯定的に考え、人間力の向上を目指してほしい」と話して